聞　第3種郵便物認可　27.7.8 宮日

ハマボウ観察し交流

河川保全へ団体、行政議論

高鍋

河川の保全活動や水辺を生かしたまちづくりなどに取り組む県内団体が一堂に会する「みやざき川づくり交流会」は6日、高鍋町であった。各団体の代表者や行政職員ら約60人が参加。小丸川河口に生息し、県の準絶滅危惧種に指定されているハマボウの見学や意見交換を行った。

民間団体と行政の関係者が集まり意見交換などを行った「みやざき川づくり交流会」

宮崎河川国道事務所の竹林秀基所長は「活発に意見を交換し、連携を深めよう」とあいさつ。高鍋自然愛好会・坂田佐一郎会長がハマボウについて「寒さに弱く、以前は高鍋が北限と言われていた。樹齢100年近い木もある」と説明し、参加者はマイクロバスや乗用車で河口へ向かい、車窓からハマボウの花を観察した。

見学後は、NPO法人大淀川流域ネットワークの杉尾哲代表理事を座長に、6団体が水質検査の様子や蛍を呼び戻す活動などを報告。意見交換もあり「河川環境改善のために小丸川ではダムにたまった土砂を川の中に置く『置砂』を試験的に行っている」「山が壊れると河川にも影響が出る。上流の山に木を植えるなど山が壊れない対策も必要」などと情報を交換した。

同交流会は河川に関する活動を行う住民団体と宮崎河川国道事務所、県県土整備部が集まり、2013年度から実施。これまでに宮崎、都城市で行い、小丸川水系では今回初めて開いた。現在は19団体が会員になっている。